

平成28年度  
工学部ファカルティ  
ディベロップメント報告書

平成29年12月  
茨城大学工学部

## はじめに

茨城大学工学部の母体である官立多賀高等工業学校は、日立製作所の支援と茨城県の協力のもとに、我が国の工業振興と茨城県における工業教育の充実を目的として昭和14年に設置されました。それ以来、地域を拠点に人と自然環境に調和したイノベーション創発と高度科学技術の実践を目指して教育研究に取り組んでいます。教育では、基礎科学・応用科学に基づく幅広い多面的な視野と豊かな人間性、社会性、高い倫理性を養い、国際的に活躍できる人材を育成することを目標としています。この目標を達成するため、教育活動に関するPDCAサイクルを構築し、これを稼働させ、不断の改善により、教育の質の向上と保証ならびに教員の質の向上を図っています。質の保証に関しては、すべての学科でJABEE(日本技術者教育認定機構)による認定にむけて教育システムの拡充を進めています。平成18年度には、機械工学科と都市システム工学科、平成22年度には、電気電子工学科、平成25年度には知能システム工学科がJABEEプログラムに認定されました。平成26年度はマテリアル工学科がJABEEプログラムに認定され、平成27年度には生体分子機能工学科、メディア通信工学科、情報工学科の3学科が認定されました。

教員の質の向上に関しては、平成13年度からは、毎年工学部主催でFD研修会を開催してきました。また、平成17年度からは、学部の講義について学生による授業アンケートに基づいて、授業改善のため教員による授業評価を実施しています。さらに、この教員による授業評価は、学期末毎に学科(あるいは分野)主催のFDにおいて検証され、学科カリキュラム全体の点検・評価・改善を含めて、学部統一書式の学科教育点検報告書として提出されています。この方式は、平成18年度からは、大学院前期課程の授業科目にも採用され、専攻教育点検報告書として提出されています。

平成28年度のFD研修会では、「工学部におけるキャリア支援」に焦点を絞ってキャリア支援室の神野河先生に工学部内におけるキャリア支援室の役割や利用状況、学生からの声についてお話しいただいた。キャリア支援室の様々な取り組みをご説明いただき、学科・教員とのさらなる連携が見えてくる有意義な講演でありました。次いで各学科長による「キャリア支援での課題について」というテーマで報告していただきました。詳しい内容は本文を見ていただければと思いますが、各学科での問題意識が良く分かり、情報共有という点で非常に参考になる報告がありました。1時間半に亘り多くの教員が最後まで関心をもって討論し有意義なFD研修会となりました。

本FD報告書に、平成28年度のFD研修会の内容をまとめましたので、ぜひともご一読いただきたく思います。また、内容につきましては、ご意見ご助言をいただければ、今後のさらなる改善に結びつけていきたいと考えております。

工学部長  
馬場 充

# 目 次

## 工学部FD研修会

### 【基調講演】

「工学部におけるキャリア支援」

工学部キャリア支援室 神野河 彩子 先生

### 【パネルディスカッション】

「キャリア支援での課題について」

機械工学科長

マテリアル工学科長

都市システム工学科長

知能システム工学科長

## 平成28年度 茨城大学工学部 FD 研修会実施報告書

茨城大学工学部教育改善委員会

### 1. 開催日時など

日時：平成28年12月21日（水） 14:30～15:55

場所：茨城大学工学部 E5 棟イノベーションルーム

司会：中村 雅史（教育改善委員会委員）

### 2. プログラム（敬称略）

開会の辞（14:30～14:35）

教育改善委員会 FD担当

基調講演（14:35～15:15）

「工学部におけるキャリア支援」（14:35～15:05）

工学部キャリア支援室 神野河 彩子 先生

質疑応答（15:05～15:15）

本学教員によるパネルディスカッション（15:15～15:45）

「キャリア支援での課題について」

機械工学科、マテリアル工学科、都市システム工学科、

知能システム工学科の各学科長

質疑応答および総合討論（15:45～15:50）

パネリスト：工学部8学科代表者

閉会の辞（15:50～15:55）

教育改善委員会委員長 池畑 隆

《教職員出席者数：120名》

～実施内容～

### 『基調講演』

神野河彩子 先生（茨城大学工学部キャリア支援室）から「工学部におけるキャリア支援」というタイトルでご講演をいただいた。はじめに神野河先生の略歴が紹介された。以下に講演の概略を示す。

#### 【工学部キャリア支援室の紹介】

まず、キャリア支援室の設置年月、発足の目的、室長、コーディネータなどについて紹介があった。

#### 【学生のキャリア支援室利用状況】

平成27年度の学生のキャリア支援室の利用状況について説明があり、学部生は206名、大学院生が108名利用していることのことであった。



#### 【平成27年度就職率と平成28年度内定率】

平成27年度就職率は学部生が98%、院生が99.5%と大変良い結果であった。文科省が発表した国立理系の就職率は98%であり、全国的にも理系の就職率がよいとのことであった。平成28年度の内定率（11月末時点）は、学部生が93%、院生が96%であり、キャリア支援室では各学科の就職担当教員と連絡を取りあい、どのような学生が未内定なのかを把握しており、3月までに就職率100%目指して支援している。

#### 【主な業務内容】

①学生個別相談、担当教員の後方支援、地元大企業インターンシップのコーディネート学内イベント企画・運営、学生向け情報発信（希望登録制でメルマガの配信 インターンシップや就職の情報をピックアップして配信している。昨年度は550名の学生が登録している。）について説明された。詳細については後述する。

#### 【工学部内のキャリア支援体制】

キャリア支援室と学生と担当教員の関係について説明された。学生就職支援センター、COC+、リクナビ、マイナビとの情報共有についての説明があった。

### 【特徴的な取り組み】

まず、地域大企業のインターンシップのコーディネートについて、主に日立製作所グループ学生の関心が高く、今年度は40名の参加を予定している。平成27年度は28名参加者が有り、高評価（インターンシップ後に就職のお誘いがあった学生）の学生が17名いたが、そのうち10名が日立製作所グループに内定している。また、JAEAのインターンシップについての説明もあった。



次に、就職・インターンシップイベント開催について、特に日立キャンパス内で実施しているインターンシップマッチングフェアや就職未内定フォローイベントについて説明があった。8月末時点で就職先が決まらない学生に対して企業を招いてイベントを行ったこと、ソーシャルパーティの様子などの個々のイベントについて、写真等を用いて詳細な説明があった。

次に、学内合同企業説明会について説明があった。学生と教員に参加させたい企業をアンケートで反映させている。今年度は2月に250社を集めて実施予定とのことであった。

最後に地域企業への就業支援について、特に2週間程度の業務経験後の採用試験について説明があった。面接が苦手な学生のための支援として地元企業にお願いをし、今年度はこのやり方で3名の学生が地元企業に内定就職しているとのことであった。

### 【大学院進学について】

キャリア支援室でも大学院進学の意義についても話をしているとのことであった。

### 【学生によるキャリアサポートチーム】

今年の4月から活動を開始している。就職を終えた学生とこれから就職活動を実施する学生の情報共有を目的に活動しているとのことである。

#### ・質疑応答

①Q. : 9月に実施した就職未内定者向けフォローイベントの結果は？

A. : 7名参加して3名の学生がこのイベントを通して内定している。

②Q. : ドクターの学生の支援はどうか。

A. : これまで 3 名の学生がキャリア支援室を利用している。専門的なので一般的な理系の求人が使えない（求人が少ない）ため、面接の練習やエントリーシートの書き方などを支援している。

③学内合同企業説明会について

Q. : 学生に連絡がなかったなので連絡をお願いしたい。

A. : 来年度は 8 月頃に先生方に参加してもらいたい企業のアンケート調査を行う予定である。

Q. : 以前は水戸の就職支援センターが企業説明会を実施していたが、現在その関係はどうか？

A. : 水戸と関係はしているが水戸は水戸、日立は日立で独自で動いている。

Q. : 水戸で企画して日立で実施する説明会はあるか？

A. : ない。

④Q. : 平成 27 年度の就職率と平成 28 年度の内定率について、平成 28 年度は途中だが、平成 27 年度と同じくらいの数値になると考えて良いか？

A. : それ以上になるように取り組んでいます。

⑤Q. : 面接が苦手な学生のための 2 週間程度の業務経験後の採用試験は、今年度はおこなったか？

A. : 今年は未だ行っていない。1 月頃になる予定。



#### 『本学教員によるパネルディスカッション』

続いて、4 学科（機械工学科、マテリアル工学科、都市システム工学科、知能システム工学科）の学科長より「キャリア支援での課題について」報告していただいた。各学科の概要は以下のとおりである。

#### 【機械工学科】:

担任が就職説明するときに学生の心構えを話している。ここでは B2C ではなく B2B 企業に目を向けること、自由と推薦応募の違い、面談では自分自身を誠実に表現する、等を心がけるよう指導している。求人票は届いた順位ナンバリングして学生が見られるようにしている。また、機械工学科として企業説明会

を独自に実施しているが、ここ数年は知能システム工学科の合同で開催している。本説明会は約 200 名の学生が参加しており、機械と知能システム以外の学科の学生も参加している。今後はキャリア支援室主催の企業説明会との調整が必要であると考えている。そのほか、現在の学科の内定状況について、キャリスタでの学生の分析などの説明があった。



**【マテリアル工学科】:**

学部生と大学院生の内定状況について説明があった。今年は求人が 200 社で、通常 (150 社) と比べて多く、大学院生は 8 月にはほぼ 100% の内定率となった。求人票は学生がいつでも見られるようにしておりメールでも情報を月に 1 回程度学生に発信している。また、学生を連れて企業訪問を頻繁に実施しており、卒研生だけでなく、2, 3 年生も訪問している。これらの企業とのやり取りを集中講義 (ものづくり課題解決型実習) として単位化し、学生と企業との接点を多く持てるようにしており、今年度は 12 名程度が履修している。また、父兄懇談会で父兄の方に就職についての説明を実施している。課題として、就職担当の負担が多い、学生の企業訪問の際の交通費の負担が大きいことが挙げられた。

**【都市システム工学科】:**

夏休みのインターンシップに M1 の 50~80% 程度、4 年生の 50% が参加している。最近では学生自ら応募することが多くなっている。都市システム特別講義 (3 年後期) において、キャリア教育について指導している。内容はエントリーシート の書き方等に係わるレポート、M2、4 年生の経験談、OB・OG のよる職場紹介、企業説明、建設現場の見学、技術師の制度等の説明などである、3 年生の前期から週 2 回工学部でセミナーがあるが多数の学生が参加している。研究室に個別に OB の訪問がある。最近では公務員の訪問も多い。東京で行われる大きな合同企業説明会に半数程度の学生



が参加している。工学部の企業説明会にも参加しているが学科としては数（建設系が20社）が足りない。求人情報の掲示板に建設系で150社程度掲示しており、メーリングリストでも情報提供している。課題として全体の3割が公務員志望であるが、地元志向の学生が多く、試験に落ちてしまう者もいるので内定率がなかなか100%にならない。就職担当は様々な企業があることを指導しているが、学科訪問に来た企業に就職するケースが多いなどが挙げられた。

#### 【知能システム工学科】：

今年の傾向は推薦で決まった学生が多かった。学部の学生には大学院への進学を勧めているのでその効果が出てきている。就職先企業は機械系49%、電気電子系13%、情報系33%、および化学・材料系5%となっている。これまで学科独自で企業説明会を行っていたが、中小企業メインでは学生が集まらないので、ここ数年は機械工学科と合同で行なっている。今後はキャリア支援室の合同企業説明会を利用することも考えたい。

#### ・質疑応答

- Q. : 生体分子機能工学科の内定率が低い。その理由は？
- A. : 化学がメインであるが出口側が幅広く、専門性が絞りづらいのが要因と考えている。また、生物系バイオ系にこだわる学生はいない。
- Q. : 大学の就職支援センターとの絡みはどうなっているか？同センターは工学部に対して何をやっているか？
- A. : 理学部・人文学部は学部では企業説明会を行っておらず、就職支援センター頼りである。工学部は自学部でおこなっている。
- A. : 就職支援センターでは、センター長中心に工学部との支援の体制を模索している。こちらからは、水戸ー日立の距離があるため、資金面、スタッフの人的支援をお願いしている。工学部の合同説明会には理学部の学生も参加予定（バスにて移動）であり、理工学部研究科で支援できればと考えている。



最後に、池畑教育改善委員会委員長からの挨拶があった。

今回は、キャリア支援に関する話題であったが、キャリア支援室の支援状況がよくわかった。工学部の学生は就職がもともと良かったが、最近ではサポートが必要な（話が苦手、コミュニケーション能力が乏しいなど）学生が増えてきており、そのような学生に対しても工学部の就職支援センターがきめの細かいサポートがされている。先生方も是非ともキャリア支援室をご活用いただきたい、とのお話であった。



文責 中村 雅史  
(教育改善委員会委員、FD 担当)

## ○学科FD研修会報告

資料ページ数が多いため、茨城大学工学部学務第一係で閲覧いただくこととし、本報告書の添付は省略します。

茨城大学工学部学務第一係  
0294-38-5009